

ポスター | 2-01 外科治療

ポスター

ファロー四徴症

座長:川崎 志保理 (順天堂大学)

Sat. Jul 18, 2015 11:20 AM - 11:50 AM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

III-P-135~III-P-139

所属正式名称:川崎志保理(順天堂大学医学部 心臓血管外科)

[III-P-137]ファロー四徴における体肺動脈短絡術後の肺動脈弁輪の成長

○富永 佑児¹, 川田 博昭¹, 盤井 成光¹, 奥田 直樹¹, 小渡 亮介¹, 小森 元貴¹, 萱谷 太², 稲村 昇², 濱道 裕二², 河津 由紀子² (1.大阪府立母子保健総合医療センター 心臓血管外科, 2.大阪府立母子保健総合医療センター 小児循環器科)

Keywords: ファロー四徴, 体肺動脈短絡術, 肺動脈弁輪

<背景>ファロー四徴(TF)で体肺動脈短絡術(SP)後の肺動脈弁輪の成長に関しては意見の一致をみていない.<目的> SP後の肺動脈弁輪の成長とその要因の検討.<対象>2000年から2014年にTF症例で SPを施行した44例中,肺動脈閉鎖,肺動脈近位部欠損,房室中隔欠損,他疾患での死亡,超低出生体重児,複数回の SPの症例を除外した27例.SPの ePTFE graft径は3.5(1),4(23),5mm(3例)であった.<方法>検討1:SP前と根治術前の心エコー検査(UCG)による肺動脈弁輪径(PVD)を比較した.検討2:現在の当院での TF根治術の弁輪温存の基準の一つは Z score -3.0である.SP前に基準以下であった20例を,根治術前に基準内になった L群と基準以下のままであった S群に分けて比較した.UCGと心カテ検査は SP前と根治術前に行った. SP前因子(PVD,月齢,BSA,LVDd,LVEDV,PA index,体血圧),根治術前因子(LVDd,LVEDV,SaO₂)を検討した.<結果>検討1: PVDの Z scoreは SP前 -3.7 ± 1.7 から根治術前 -2.8 ± 1.6 となり,PVDは増大した($p<0.01$).検討2: L群は13例,S群は7例. SP前に心カテ検査を施行したのは L群9例,S群6例.Z scoreは SP前 L群 -3.8 ± 0.78 ,S群 -5.3 ± 1.6 で,L群で PVDは大きかった($p=0.03$). SP術前の,月齢(L群,S群: $5.9\pm 3.8, 2.1\pm 1.1, p=0.01$),BSA($0.34\pm 0.06, 0.22\pm 0.04, p<0.01$),PA index($243\pm 87, 102\pm 36, p<0.01$)は,L群の方が大きく,体血圧も高値であった($p=0.03$). SP前の LVDd($76.9\pm 8.0, 84.4\pm 8.9\%$ 正常値)と LVEDV($94.7\pm 15.7, 103.1\pm 23.3\%$ 正常値)に差はなかったが,根治術前/SP前比は LVDd($1.3\pm 0.2, 1.1\pm 0.1, p=0.02$),LVEDV($1.9\pm 0.4, 1.4\pm 0.2, p=0.05$)とも L群が大きかった.SP前検査と根治術前検査の間隔($13.3\pm 3.8, 12.7\pm 10.5$ ヶ月)には差がなかった.根治術前の SaO₂($87.5\pm 5.1, 78.7\pm 8.4, p=0.02$)も L群が高かった.<結語>ファロー四徴において体肺動脈短絡術後,肺動脈弁輪の成長を認めた.肺動脈弁輪の成長には,体肺動脈短絡術による肺血流量の増大の関与が示唆された.